

ごかつら池ふるさと村

花と動物ふれあい広場

(通称 どうぶつパーク)

大規模リニューアル企画案のための参考資料

2022年4月27日

多気町役場 農林商工課

アジェンダ

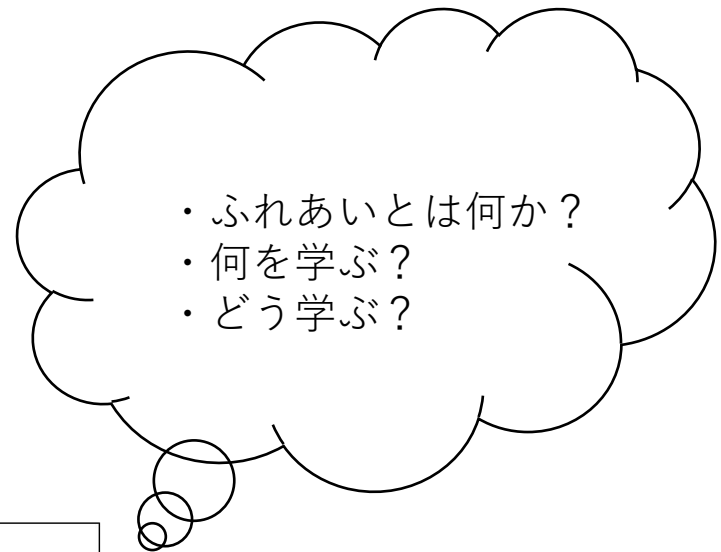
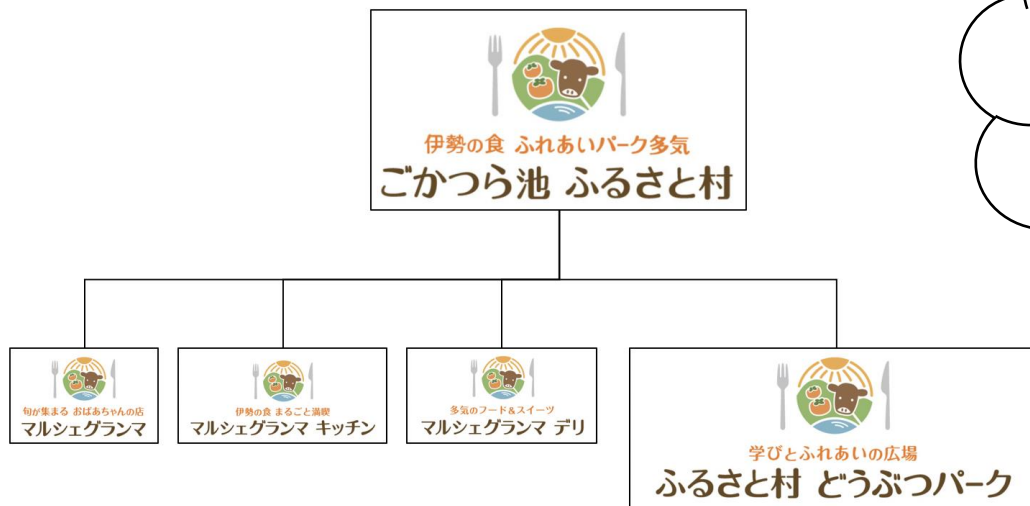
- ①お客さま目線のコンセプトと体験
- ②珍しい動物ではなく、体験による価値創出
- ③動物の生態に沿った展示
- ④企画例
- ⑤バックヤードエリア
- ⑥エントランスエリア
- ⑦パークエリア内の丘周辺
- ⑧動物園の顔となるシンボル

①お客さま目線のコンセプトと体験

学びとふれあいの広場

ただ動物を展示するのではなく、イベント実施等による運営によって、お客さまに価値ある体験を提供し、学ぶ機会を提供する

「ごかつら池ふるさと村」全体の
コンセプトとの整合性も重要



企画が重要となる

②珍しい動物ではなく、体験による価値創出

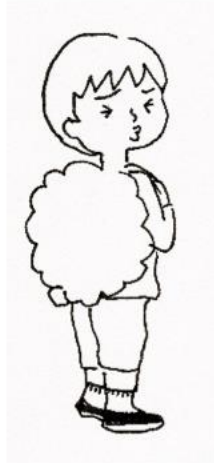
お客さまが「どうぶつ」を体験し、学ぶことができる施設

今後、予算面から設備といったハード面の制約から珍しい動物を飼養することは難しい

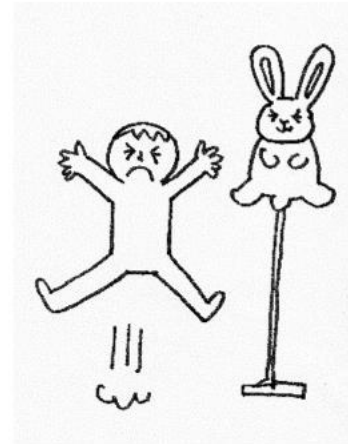


体験設備やイベントなど、ソフト面から顧客満足を高める取り組み

○ヒツジの疑似毛刈り体験&羊毛重さ体験↓



○うさぎのジャンプカ or 聴力↓



③動物の生態に沿った展示（園の地形も利用）

動物の習性を引き出す展示施設

例：ヤギの展示

ヤギのいるゾーンでは、高所を得意とするヤギが橋渡りをできるように橋を設置

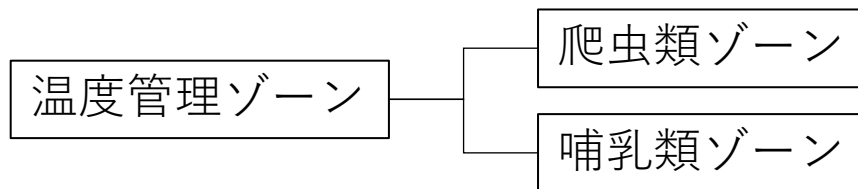
定期的にエサ等で誘導し、
お客さまがヤギの生態について
学ぶ機会を得る



④企画例

爬虫類ゾーン

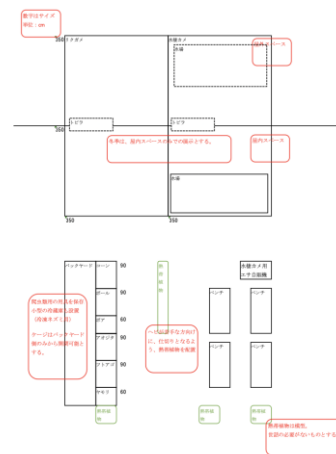
装飾でジャングル感を演出



ジャングルに入りこんで、冒険をしているようなワクワク感。
その中にインパクトのある爬虫類を展示して、ドキドキ感をプラスする。
→日本には生息していない種類中心に展示。体格、色合いからインパクトを与える。

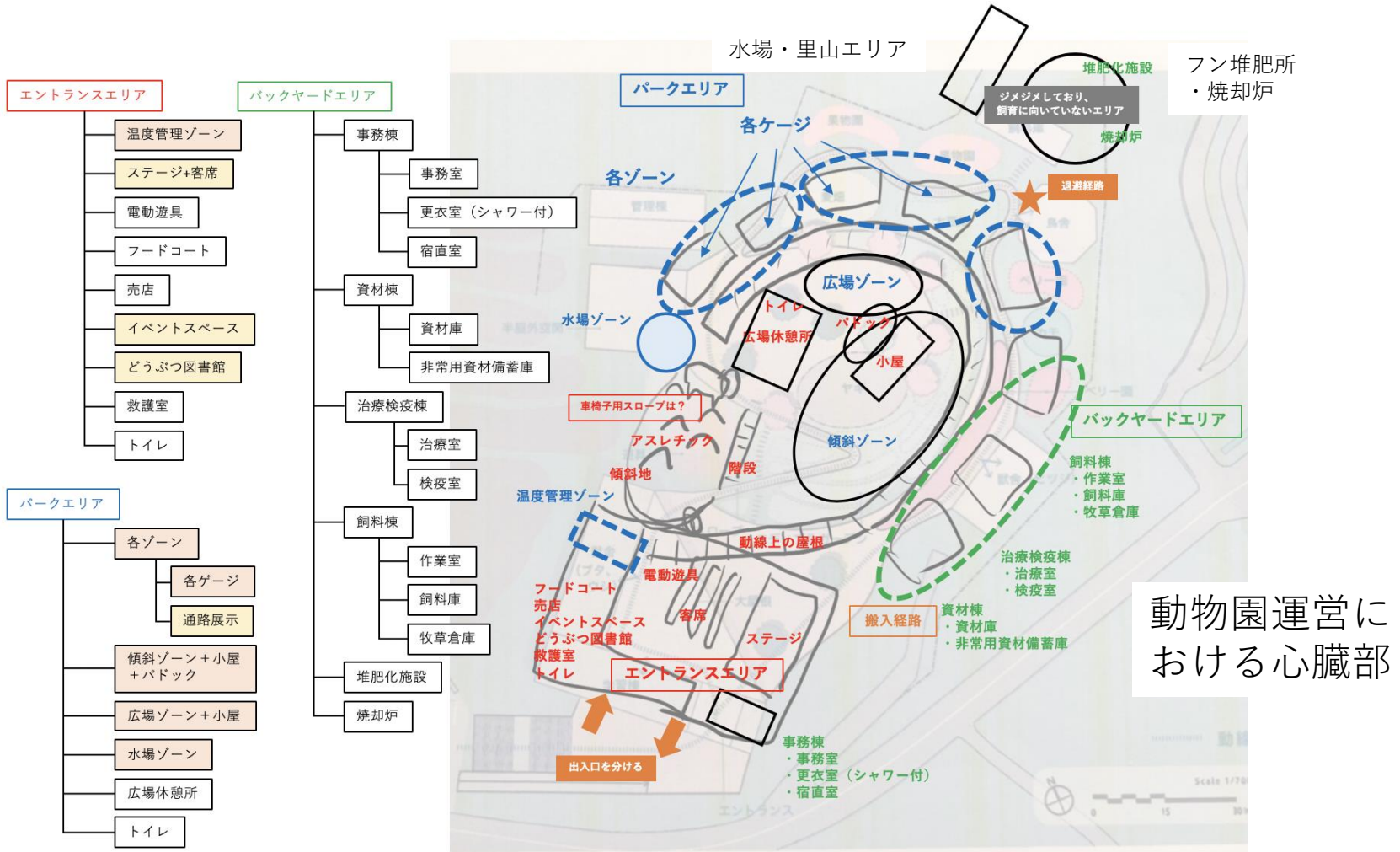
展示動物

- コーンスネーク (ナミヘビ)
- ボールパイソン (パイソン)
- エメラルドツリーボア (ボア)
- アオジタトカゲ (スキנק)
- フトアゴヒゲトカゲ (イグアナ)
- クレストッドゲッコー (ヤモリ)
- ミシシippアカミミガメ、クサガメ、イシガメ (水棲)
- ケヅメリクガメ (陸棲)
- ※ ヘビ・トカゲ：各1匹
- 陸棲カメ：3匹程度
- 水棲カメ：合計15匹程度



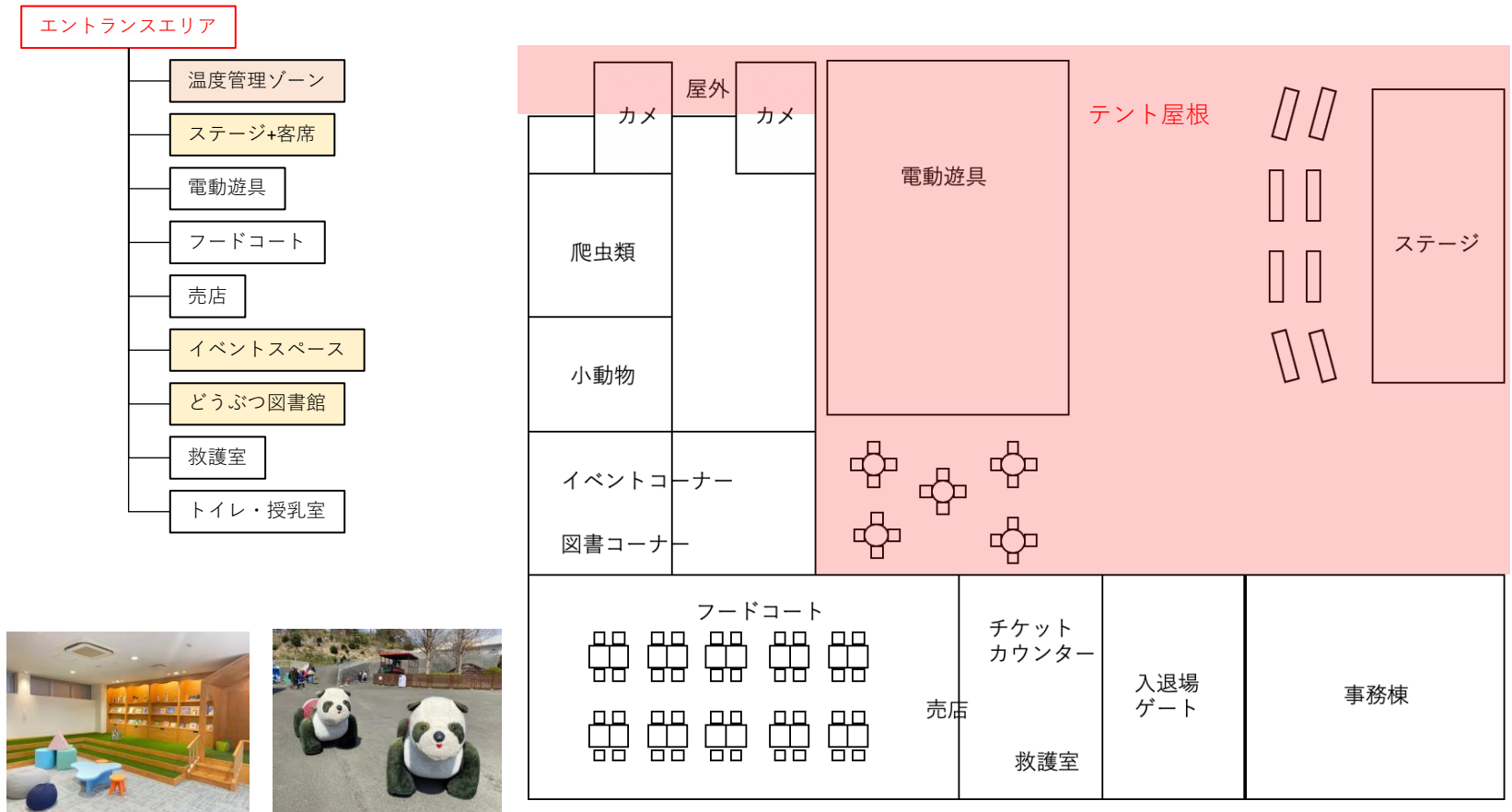
⑤バックヤードエリア

資料管理、治療検疫、倉庫機能を集約したスタッフ専用エリア



⑥ エントランスエリア

物販・飲食・事務所機能を集約した半屋外型エリア



⑦-1 パークエリア内の丘周辺

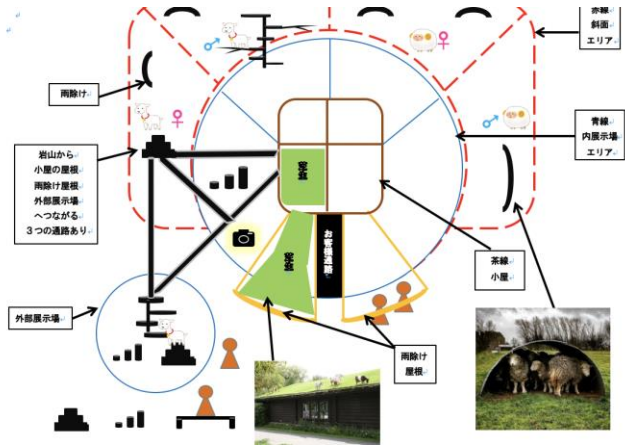
動物の生態を引き出す展示と動物体験

動物の生態を引き出す展示

ヤギ用の橋渡りなど

動物体験

うさぎのジャンプカチャレンジor聴力体験



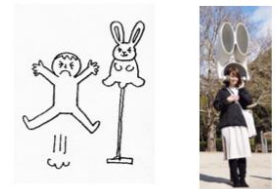
○ヤギの橋渡り



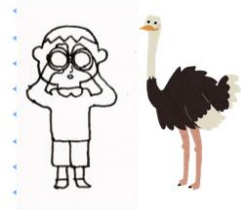
○人間版回し車



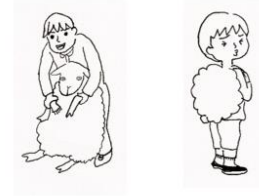
○うさぎのジャンプカ or 聴力



○ダチョウと視力対決



○ヒツジの疑似毛刈り体験&羊毛重さ体験



○ヤギ展示場のフォトスポット案



⑦-2 パークエリア内の丘周辺

地形を活かしたアクティビティと憩いの広場の整備

例) 動物のエリアと一体型の遊具 (参考 大森山動物園: 秋田)

例) 地形を活かしたリュージュなどのアクティビティ

例) 木製アスレチック遊具、ハンモック

例) ゆったりくつろげる休憩エリア など

⑧動物園の顔となるシンボル

ここに来たらどんな価値を体験ができるのかといった目玉施設

例：ヤギの動態展示

ふるさと村 どうぶつパークに
来園する方の目的となる施設



雨の日も風の日も、開園中
であれば、必ず体験できるよ
うにする必要がある



ハード面 + ソフト面

両面からのすり合わせと工夫が大切

